

第12章 生産現場の実態

この章では、生産を行っている企業のヒアリング結果等に基づき生産現場の実態を記す。
(すべての企業に当てはまるものではないことはご留意頂きたい。)

工場の様子



I. 原材料

ブラジルは資源が豊富であるため、国内で調達可能なものも多い。海外からの輸入に頼らざるをえないものについては、税関を通し輸入する必要がある。近年の経済発展に伴う税関取扱量の増大に伴い、税関等の処理に時間がかかっているのが現状である。原材料の輸入に際しては、時間に余裕をもって手続きを行う必要がある。

II. 部品調達

ブラジルではすでに様々な産業が勃興しているため、多くの部品が調達可能である。技術力が高いため、生産が行われていない部品であっても図面等を見せることによって生産可能となることが多い。この際、ブラジルの人件費は決して安くはないため、結果として輸入品に比べコスト高になってしまう場合も多いため、注意が必要である。

III. 労務

第7章に記したように、ブラジルでは基本賃金が上昇する仕組みとなっているため、計画的な雇用が重要となっている。ジョブローテーションの感覚が強く、優秀な人ほど他の会社に移るリスクも高いため、自社におけるキャリアプランや教育の仕組み（自社にいることによるインセンティブ）を明確にし、優秀な人材の囲い込みが必要である。

IV. 会計・税務

四半期決算が必要であるという点、および税務伝票（Nota Fiscal）発行が必要であるという点で会計・税務に関する事務コストが高くなっている。

特に、税務伝票（Nota Fiscal）は商品等の販売だけではなく移入や移出すべてに発行が

義務付けられており、管理方法についても詳細に規定されている。そのため、法規通りに行わないと罰則の対象となる可能性もあり注意が必要である。

デジタル簿記公共システム（SPED）導入に伴いすべての取引が各州の税務局・連邦国税庁から把握可能となり一段と厳しくなるとされている。

V. 通関

通関処理は複雑な部分もあるため、迅速に処理するための専門家も存在している。場合によって様々な交渉が必要となる場合もあるため、時間に余裕を持つとともに、様々な人脈構築が必要となる。

VI. インフラ

港はどの港も混雑している状況であり、荷降ろし等には相当の時間を要するのが現状である。道路網については、ある程度整備されているものの広大な大地であるが故、未だ十分ではない。2014年・2016年に行われるワールドカップ・オリンピックに向けた整備が期待されている。

VII. 商慣行

VII-1. B to C

高額商品の販売に関しては、分割払いの提示が一般的である。これは過去のハイパーインフレの経験によるものだと考えられる。

VII-2. B to B

特殊な商品を除き、手形のサイトは30日程度である。（例えば、肥料は使用した農作物の収穫が終わった後の支払となるよう1年近いサイトで設定されることが一般的である。）

また、税務伝票が商品の売買等に必要となるため、常に商品と共に税務伝票が送られるようになっている。